

MRI 検査手順

フルボディスキャンタイプ

CRT-P スキャン 条件

植込み CRT-P : Quadra Allure MRI, Quadra Allure MP

条件付きMRI対応CRT-Pが植込まれています。

患者氏名				
緊急連絡先				
植込み施設				
診療科名				
	モデル番号	シリアル番号	植込み日	
心臓ペースメーカー				
右心リード				
左心リード				
右室リード				

(※リード植込み後の定期的なMRI検査を受けることは推奨されていません。)

事前確認

- ・条件付きMRI対応カード確認（**オレンジ色のカード**）
- ・本体とリードの全てがMRI対応であること
- ・遺残リード、その他のデバイス、アダプターなどが植え込まれていないこと
- ・リード植込み後6週間経過していること
- ・リード抵抗が限度値内であること
- ・MRI設定時のペーシングモードが非同期ペーシングとなるよう設定されている場合、出力5.0v/1.0msまたは7.5V/1.0msで横隔膜刺激がないこと
- ・右心房または右室リードの閾値が2.5V、パルス幅0.5ms以下であること
- ・右心房または右室リードのキャプチャー閾値が不安定でないこと
- ・左室リードの閾値が2.0V、パルス幅0.5ms以下であること
- ・リード損傷の疑いが無いこと
- ・平熱で体温調整に異常がないこと
- ・検査当日は仰臥位(腕の位置は体の横とする)で撮像が行えること

MRI 検査直前

- ・1.5Tのトンネル型MRI装置であること
- ・検査は仰臥位(腕の位置は体の横とする)
- ・一軸あたりの最大勾配スルーレートが200T/m/s以下であること
- ・全身SAR2.0W/kg以下、頭部SAR3.2W/kg以下であること
- ・**ローカル送信専用コイル又はローカル送受信コイルの使用は、頭部、下肢(ただし、臀部を除く)、手首に限ること**
- ・スキャン中は体外式除細動器を使うよう準備すること
- ・パーマネントなCRT-P設定を記録すること
- ・CRT-P管理医の指示に従い、プログラムでMRI設定を有効化すること
- ・MRI設定有効化後のCRT-P設定を記録すること

MRI 検査中

- ・MRI 検査時は、心電図、パルス酸素濃度計または非侵襲的血压測定のいずれかを使用し、血行動態のモニタリングを行う必要がある

MRI 検査直後

- ・プログラムで MRI 設定を無効化する
- ・プログラムで CRT-P チェックを実施
- ・プログラムで CRT-P チェック結果・設定を記録
- ・CRT-P 管理医により、CRT-P が MRI 検査前の設定に戻っていること、調整が必要ないことを最終確認してください